

令和5年度 総務企画委員会 県内所管事務調査の概要

令和5年6月7日（水）

◆調査箇所：ながたに振興協議会（豊後大野市犬飼町黒松）

【概要】

ながたに振興協議会は、農業活動や生活道路を脅かす竹林を整備して、犬飼町長谷地区の安全安心な環境を確保するとともに、伐採した竹を有効活用する竹の循環型資源化と自主財源確保に取り組んでおり、令和2年度ふるさとづくり総務大臣表彰を受賞している。

当日は、里山整備や竹活用事業の概要、事業活動による効果や今後の事業展開予定について説明を受け、意見交換を行った。また、旧長谷小学校跡地で営業を行っている竹パウダーを活用した「竹の酵素風呂」の施設調査も実施した。



<主な質疑等>

- ・事業開始の契機と現在事業に参加している人員及び次世代の確保について
- ・竹チップの発酵たい肥化の苦労や現在の生産量及び販売先について
- ・竹の酵素風呂の特徴及び米ぬか酵素風呂やヒノキ酵素風呂との比較について
- ・竹チップ活用のノウハウ及び技術供与について

◆調査箇所：浜嶋酒造合資会社（豊後大野市緒方町下自在）

【概要】

浜嶋酒造合資会社は、明治時代から続く歴史ある醸造蔵である。鷹来屋の屋号で知られ、農家として自ら酒米を作り、手造り・槽しぼりにこだわる自耕自醸の酒造りを行っている。令和5年4月には鷹来屋ガーデンささらをオープンさせ、訪日外国人や国内観光客に対して、発酵の食文化やエコパーク・ジオパークの説明を行うなど地域活性化にも積極的である。

当日は酒造場及びささらの施設調査を行うとともに、インバウンド対応や調理教室開催の取組について説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・海外を含む観光誘客の工夫について
- ・鷹来屋ガーデンささらの建築材料等について
- ・今後の酒造りの方向性や現在の年間生産量等について
- ・豊後大野市の清酒製造の文化と海外誘客の関心、健康志向等について

◆調査箇所：豊肥振興局

【概要】

豊肥振興局における組織及び人員、管内の概況と特性令和5年度重点項目、地区災害対策、交通安全、特定家畜伝染病防疫対策、地域活性化施策（地域活力づくり総合補助金のうち、田んぼS U P賑わい創出事業、藤居醸造複合施設備品整備事業、発酵文化学習拠点施設備品整備事業）、小規模集落対策、酒蔵を活用した地域活性化事業等（くらくら祭2023の実施）について説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・高齢者スマートフォン教室の実施状況と地域コミュニティ活性化について
- ・観光客の二次交通手段の確保と地域公共交通へのスマートフォン活用について
- ・ユネスコエコパークによる観光誘客と地域生態系の維持・回復について
- ・地域活力づくり総合補助金の活用と住民への周知について

◆調査箇所：丸山自治会（竹田市久住町白丹）

【概要】

竹田市久住町白丹地区にある丸山自治会は14世帯34人の小さな集落であるが、丸山生活改善センターに簡易宿泊所の許可を取り、スポーツ合宿誘致による地域作りに取り組んでいる。また、田んぼを利用したSUP体験が地域の賑わいづくりに貢献し、県内では初めて第9回スポーツ振興賞に入賞している。

当日は、丸山方式とよばれる中山間地域等直接支払制度の活用やコロナ禍によるスポーツ合宿中止の影響とその代替としての田んぼを活用した新たな賑わい創出の取組について説明を受け、質疑と意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・スポーツ合宿誘致に成功した要因や苦労等について
- ・丸山自治会における中山間地域等直接支払制度の活用について
- ・田んぼSUP賑わい創出事業の効果と情報発信の手法について

令和5年6月8日（木）

◆調査箇所：南部振興局

【概要】

南部振興局における組織及び人員、管内の概況、危機管理体制と令和5年1月に発生した高病原性鳥インフルエンザへの対応状況、地域振興施策の推進〔地域活力づくり総合補助金の活用状況、地域課題対応事業（宇目地域ブランディング事業、次世代とまちをつむぐプロジェクト推進事業）〕、小規模集落対策の推進（ネットワーク・コミュニティ推進モデル委託事業及び推進体制整備事業）、移住・定住対策（佐伯市への移住状況、空き家バンク活用強化）について説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ガストロノミーツーリズムによる情報発信手法検証の詳細について
- ・小規模集落応援隊の派遣回数及び登録団体・企業と地域のマッチングについて
- ・南海トラフ地震発生を想定した防災拠点からの輸送訓練や宮崎県との連携について
- ・佐伯市における移住・定住の年齢構成と移住後の居住地等のデータ収集について

◆調査箇所：青山地域コミュニティ協議会（青山てらす）（佐伯市青山）

【概要】

佐伯市青山地域では、過疎化や高齢化が進み、地域のつながりや活力が低下し、買い物や交通手段の不便などの課題がある。令和3年度から話す会や考える会を実施して検討を重ね、設立準備会を経て、青山地域コミュニティ協議会が令和5年3月に設立されている。若者が中心となり、軽トラ市や飲食を提供するオープニングイベントを開催し、多くの住民が楽しみながら新たな地域づくりに参加するようになっている。

当日は、多数の協議会役員が参加する中で、地域の概要やこれまでの取組について説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ふれあい、地域振興の2部会から若者部会を独立させた理由及びその効果について
- ・佐伯市や県からの補助金と自主財源となる商品づくりについて
- ・若者が参加しやすい環境づくりや会議の開催手法について

◆調査箇所：にいなめファーム（佐伯市上浦最勝海浦）

【概要】

にいなめファームは地区の有志が集まり、廃校となった最勝海（にいなめ）小学校裏の耕作放棄地をよみがえらせた農園である。土に親しみ、地域のコミュニティの場として交流を深め、故郷を元気にすることを目的としており、小規模集落等支援事業などを活用して、平成30年度から野菜の試験栽培と販売、小中学生と協力した花の植栽、体験農園などの取組を継続している。

当日は、雨天のため仮設テントから農園を視察し、神野会長から開墾の苦労やこれまでの取組について説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ちびっこ農園の取組や児童館の子どもたちの参加状況について
- ・収穫した芋や野菜等の販売先と出荷量について
- ・佐伯鶴城高校のジョブシャドウイング受入れについて
- ・イノシシやシカ被害の対策と令和4年台風第14号の被害について

令和5年6月13日（火）

◆調査箇所：おおいた留学生ビジネスセンター（別府市京町）

【概要】

大分県では100を超える国と地域から約3,200人も外国人留学生が生活している。おおいた留学生ビジネスセンターは留学生の生活や就職、起業を支援するため平成28年度に設置され、合同企業説明会の開催、県内企業理解促進のための企業訪問、日本語能力向上支援、就職相談等を実施している。

当日は、センターの概要や令和4年度に開始した留学生の県内企業インターンシップ支援事業等について説明を受け、質疑及び意見交換を行うとともに、留学生起業者が入居するインキュベーション施設の視察を行った。



<主な質疑等>

- ・留学生からの就職、起業相談と在留資格（ビザ）に関する相談について
- ・留学生の県内就職の割合や就職希望業種、県外就職の地域等について
- ・留学生と県内企業のマッチングや技能実習生との関係について
- ・インキュベーション施設の利用年限や利用料金等について

◆調査箇所：一般社団法人うつりくらす（杵築市南杵築）

【概要】

田舎暮らしへの憧れのあった中野代表は、杵築市の地域おこし協力隊員に応募し、不動産業の経験をいかして空き家バンクの担当となり、杵築市へ移住して現在に至る。令和3年度に一般社団法人うつりくらすを設立し、空き家の掘り起こしやバンクへの登録、移住希望者への案内など、地域住民や行政と協力・連携しながら移住支援を行っている。

当日は、杵築市地域おこし協力隊での経験や移住者交流会の開催、地域カルテの作成など、うつりくらすの活動概要について説明を受けるとともに、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・移住希望者の年代や性別及び移住地域に対して求める条件について
- ・行政、支援事業者、不動産業者における移住者のニーズ共有について
- ・移住希望者と空き家所有者のマッチングにおける困難について

◆調査箇所：東部振興局、別府県税事務所

【概要】

東部振興局における組織及び人員、管内の人口推移、危機管理対策（災害対応、特定家畜伝染病防疫演習）、地域活力づくり総合補助金を活用した地域活性化の推進小規模集落対策、地域課題解決対応事業、別府県税事務所における組織及び人員、令和5年度重点取組事項、令和4年度県税決算見込額、税目別調定額の累年比較・徴収率の推移についてそれぞれ説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・大雪発生時における職員の参集状況と地区災害対策本部の設置について
- ・国東高校における公設塾「国東夢道塾」の詳細と参加人数及び効果について
- ・ネットワークコミュニティ推進モデル委託事業のアンケート結果と課題等について
- ・令和4年度県税決算見込額調における収入未済額現象の要因について

◆調査箇所：くにさき地域応援協議会「寄ろう会(え)」(国東市国東町鶴川)

【概要】

国東市では住民同士の支え合い活動を住民主体で進めており、平成30年3月に市内全域の情報共有を目的として、くにさき地域応援協議会「寄ろう会(え)」が設立された。誰ひとり取り残さない人に優しいデジタル化の実現に向けて取組を続けており、令和4年度過疎地域持続的発展優良事例表彰総務大臣賞を受賞している。

当日は、住民が主体となったスマホ教室、Instagramを活用した、地域づくり支え合い活動の共通Webサイト「国東つながる暮らし」の運営等について説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・高齢者のスマートフォン教室の参加者状況や派生した活動等について
- ・地区公民館におけるWi-Fiの設置状況について
- ・集いの場づくりとしてのカフェ事業拡大と自主財源確保の取組について
- ・地域によるコミュニティバスの運行と道路運送法の解釈や運用について

令和5年6月16日(金)

◆調査箇所：中部振興局、公文書館、大分県税事務所

【概要】

中部振興局における管内の概況、組織と施策体系、危機管理（防災対策の推進、特定家畜伝染病対策）、地域活性化の推進（旧町村部地域の振興、移住定住と空き家対策の推進）小規模集落対策、観光・商工業の振興（周遊観光の促進、地場産業の振興）について、公文書館における沿革・組織、施設・事業の概要等について、大分県税事務所における管内の概況、組織、令和4年度県税決算見込額、税目別調定額・収入未済額・徴収率の推移特別滞納整理室の処理状況等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・人事異動時における災害対応の体制と情報連絡員と市町村の顔合わせについて
- ・大分市のアートを活かしたまちづくり事業の詳細と事業成果について
- ・公文書デジタル化の予算や進捗状況、市町村の公文書保存状況について
- ・特別滞納整理室が県税事務所から徴収引継ぎを受けた事案の詳細について

◆調査箇所：JR高城駅（大分市高城新町）

【概要】

JR九州は、利用客の安全と利便性向上を目的とした駅の改修工事を行っており、大分県も県内の乗降客数が多い駅のバリアフリー化を支援している。今回訪問したJR高城駅では、令和4年3月までに音声案内装置や多目的トイレ、エレベーター、転落防止用の柵などが新設され、高齢者や障がい者等の利便性が向上している。

当日は、バリアフリー化推進事業の概要や高城駅の利用状況のほか、7月1日からサービス開始となるスマートサポートステーションについて説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・視覚障害者に対する配慮について
- ・サポートセンターにおける乗客の見守りや不明時の対応について
- ・監視カメラの位置と数について
- ・緊急時の対応について

◆調査箇所：public house えてふえて（由布市挾間町古野）

【概要】

えてふえては、佐野夫妻が古民家を改装してオープンした多世代交流拠点カフェである。由布市挾間町においても少子高齢化による人口減少に伴い、独居高齢者やひとり親家庭等と地域とのつながりが希薄になっており、えてふえては地域住民に寄り添い、健康状態を見守るコミュニティナースの実践場として機能することを目指している。

当日はワークショップスペースなどを活用した取組やマルシェの開催等について説明を受け、質疑及び意見交換を行うとともに、地域活性化総合補助金で整備したバリアフリートイレなど施設調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ワークショップスペースの活用状況や利用料、参加者の募集等について
- ・事業における地域活力づくり総合補助金の利用と行政への要望について
- ・カフェ運営とコミュニティナース活動について
- ・えてふえての名前の由来と今後の事業展開について

◆調査箇所：大分県立芸術文化短期大学（大分市上野丘東）

【概要】

大分県立芸術文化短期大学の沿革と学科構成、機構・職員組織、予算、教育課程、志願者・入学者の状況、令和4年度卒業生の進路状況、地域との連携、地域・社会貢献事業、施設、重点事業等について説明を受け、意見交換を行った。

当日は、キャンパスの整備状況として、図書館、大学内の音楽ホール棟、美術棟、工房棟、芸短ギャラリーなどの施設や展示作品、授業の様子についても視察を行った。



<主な質疑等>

- ・入学定員確保の要因について
- ・卒業生の進路及び県内就職率、卒業後の相談窓口等について
- ・アートマネジメントプログラムの取組と成果について
- ・美術・音楽教諭の採用が少ない要因と学生の希望について

令和5年6月21日（水）

◆調査箇所：パラディッツおおいた（玖珠町戸畑）

【概要】

令和4年夏にオープンしたパラディッツおおいたは、地元の食材を使ったレストラン、ドローンの飛行やプログラムショーなどを行っており、観光客の回遊促進や滞在時間増加を目的とした付加価値の高いキャンプ場である。

当日は、運営を行うパラディッツエイト株式会社の概要や学費無料のITファーム、高校生向けの無料IT私塾の運営などについて説明を受け、意見交換を行うとともに、施設についても調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ITファームの応募状況と卒業後の玖珠町や日田市への移住状況について
- ・ドローンムービー世界大会の参加条件や観光集客への効果について
- ・客層や年代、今後のイベントや事業展開について

◆調査箇所：西部振興局、日田県税事務所

【概要】

西部振興局における管内の概況、組織及び業務体系、危機管理（防災、特定家畜伝染病対策）情報発信、地域活性化策の推進〔地域活力づくり総合補助金、地域課題対応事業（ツール・ド・九州2023、移住・定住の促進）小規模集落対策の推進、観光・商工業の振興（新型コロナウイルスの影響、ゴールデン・ウィークの観光動向）〕等について、日田県税事務所における管内の概況と組織や重点事項、令和4年度県税決算見込額、県税調定額、徴収率及び収入未済額の推移等について、それぞれ説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・インスタグラムを活用した情報発信の頻度とフォロワー数について
- ・ツール・ド・九州2023やBRTによる福岡県との連携について
- ・西部振興局内の地域への流入、流出者数と移住定住施策の効果について
- ・県税事務所におけるキャッシュレス決済の割合と職場研修について

◆調査箇所：NPO法人リエラ（日田市隈）

【概要】

NPO法人リエラは平時から互いに支え合い、安心して暮らせるまち・ひとづくりを目指し、被災地の支援活動や移住定住の支援活動、防災支援活動など日田市内で幅広く活動を行っている。令和2年7月豪雨における日田市天瀬町や津江地域での被災者支援活動のほか、令和4年3月にはウクライナ避難民の生活サポートなどにも携わった。

当日は、日田市での空き家バンク登録状況やひた暮らし応援団の活動状況など、移住定住の支援に関する取組を中心に説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・移住希望者と地域住民の移住に関する意識の違いについて
- ・ひた暮らし応援団における移住者の割合と活動内容について
- ・移住に係る課題と市役所との連携について
- ・空き家の改修時における市営住宅の利用について

◆調査箇所：大肥の郷まちづくり会議（日田市夜明中町）

【概要】

日田市は近年、豪雨災害で大きな被害を受けている。大肥の郷まちづくり協議会のある大明地区では、平成29年の九州北部豪雨や令和2年7月の豪雨などで集落が浸水、J R日田彦山線も被災したことで一部区間が不通となった。昨年、日田彦山線のBRT（バス高速輸送システム）による復旧が決定したことで、大肥の郷まちづくり会議が発足し、新たなまちづくりのデザインを検討し、今後5年間振興事業を展開することとしている。

当日は、昨年10月に策定した大肥の郷まちづくり将来ビジョンの概要や住民アンケートの結果などについて説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・BRTひこぼしラインの地元利用の拡大と観光活用の検討について
- ・地域復興デザイン会議における大明中学生の意見について
- ・大肥の郷まちづくり会議への若者参画とまちづくり応援会社について
- ・令和5年度地域資源活用部会が実施する水資源活用事業の詳細について

令和5年6月22日（木）

◆調査箇所：中津青年会議所（中津市京町）

【概要】

今年70周年を迎える中津青年会議所では、日本全国で47番目に設立された歴史ある団体であり、韓国晋州市の会議所とも50年間交流を継続している。明るい豊かな社会を構築するため、まちづくりなど地域をより良くし、社会問題を解決するための取組を、設立当初から継続している。

当日は、中津青年会議所の概要や取組、令和3年度と4年度に実施した親子で参加する防災活動やSDGsを学ぶイベント、移住促進などの地域課題について説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・若手経営者から見た中津市や大分県の課題及び同世代へのフォローアップ等について
- ・冊子「中津暮らしのすすめ」にある移住促進の提案と人口目標10万人について
- ・中津ビジョナリーシティ創造会議の参加メンバーと事業内容について
- ・60周年及び70周年に実施したアンケートの比較と振り返りについて

◆調査箇所：北部振興局、中津県税事務所

【概要】

北部振興局における管内の概況、組織及び人員、危機管理（防災、特定家畜伝染病対策、新型コロナウイルス対応）、地方創生移住・定住対策、地域活力づくり総合補助金等を活用した地域・観光振興、小規模集落対策の取組、中津県税事務所における管内の概況、組織、重点事項、令和4年度県税決算見込額、税目別調定額・収入未済額・徴収率の推移等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・小規模集落対策のデマンド型交通実証事業における予約方法や運賃等について
- ・多文化共生イベントの具体的内容と外国人技能実習生の参加について
- ・県内他地域より、小規模集落応援隊の活動実績が多い要因について
- ・北部振興局管内の空き家バンク登録状況と移住者による空き家改修や原状復旧の考え方について

◆調査箇所：宇佐市安心院地域複合支所（宇佐市安心院町下毛）

【概要】

宇佐市安心院地域複合支所は令和4年3月に完成し、中央公民館や観光協会、農業公社、まちづくり協議会など多くの団体が入庁するとともに、県内の自治体庁舎では初めてウッドデザイン賞を受賞している。また、宇佐市安心院町ではデマンド型の予約制乗り合いタクシーや安心院中心部を循環するバスの実証運行に取り組み、地域の実情に即した公共交通体系の構築を目指している。

当日は、令和4年度に実施した実証運行の概要や利用実績について説明を受け、質疑及び意見交換を行うとともに、木材をふんだんに使用した庁舎の様子や郷土の偉人を紹介する展示コーナーについても調査を行った。



<主な質疑等>

- ・宇佐市安心院町における運転免許返納率と地域タクシー会社の運転士確保について
- ・デマンド交通の高齢者の登録率と利用状況、予約キャンセル件数等について
- ・デマンド交通実証運行におけるタクシー会社への委託料、利益等について
- ・安心院支所新庁舎におけるイベントの開催状況と住民の声について